

令和7年度 吉川市立吉川小学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質問項目	自己評価	学校関係者評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	9.39	10.00	学校教育目標「たくましく生きる」の具現化に向け、吉小ナビの見直しや共通理解・共通指導の徹底を図り、「思いやりのある子・よく考える子・心身健康で粘り強い子」の育成に取り組んだ。日々の教育活動や体験活動を大切に授業や学校行事等の充実を図り、全教職員が学校経営に対する当事者意識や参画意識をもって組織的に教育目標の実現に努めている。
2	教職員は、PDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたった。	8.64	9.64	学校課題研修や教職員研修により、課題意識や振り返りを重視した授業改善に取り組んでいる。学力調査や生活アンケート、ハイパー00等の結果を分析し、課題解決に向けた具体的な取組を学年主任が中心となって検討・確認し、朝の活動や授業、学校行事で児童の実態を考慮しつつ共通指導を行うことで、組織的にPDCAサイクルを推進している。
3	学校は、事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	9.39	9.64	年度当初に全教職員で吉小ナビやいじめ防止等の基本的な方針、危機管理マニュアル等の確認すると共に報告・連絡・相談・確認・記録を徹底し、悪い情報ほど早く把握し組織的で丁寧な対応に努めている。また、施設の安全点検も複数の目で日常的、定期的・計画的に実施し、不備があればすぐに対応し、児童・教職員の事故やトラブルの未然防止に努めている。
4	学校は、清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	8.56	9.64	吉小ナビを活用して年度当初に清掃への取り組み方を全校で確認することで、無言清掃等の清掃指導を共通で行っている。また、トイレの床や便器等の落としにくい汚れは、業者に清掃を依頼し、校内美化に努めている。掲示物については、教育活動や学校行事等での子ども達の活躍の様子や読書・縄跳び目標達成者を昇降口や階段・教室廊下等に掲示することで達成感や自己肯定感の向上、良い行動の共有による積極的な生徒指導を実施している。
5	学校は、小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	8.64	9.64	南中学校区の小学校2校、中学校1校で教職員の合同研修会や相互授業参観を行い、9年間を見通した系統的な学習指導や中1ギャップ解消に向けた学校生活についてのきまりや約束の共通確認・共通実施を行っている。小学校6年生、中学校1年生へのアンケート調査も実施し、中学校の学習や生活への不安の把握やその解消に向けた準備やアドバイスを3校が共有し、小中の連携強化による一貫教育の充実や円滑な教育活動の接続に努めている。
6	教職員はPTA活動や地域の活動に積極的に関わり、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	8.56	9.64	安心・安全な学習、生活環境を整えるため、児童の登下校の見守りに教職員だけでなく保護者や登下校見守りボランティアの方々も参加していただいている。また吉小クラブによる校庭整備を年間2回実施し、除草や樹木の剪定等を実施し、教育環境を整えることができた。PTA主催のふれあい会にも多くの教職員や保護者、地域の方々も参加し、在校児童だけでなく新年度入学予定の園児や卒業生もあきり温かい交流活動を実施することができた。
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	9.77	10.00	日々の教育活動や学校行事での児童の活躍の様子を2日に1度の頻度で学校ホームページや廊下の掲示板で紹介し、成長する喜びを共有できるように努めた。4月から2月までの間に学校ホームページに5万回以上のアクセスがあった。また、学校だよりや情報配信アプリを活用し、保護者や地域の方々に積極的に情報発信を行った。活躍の様子を知っていただくことで、子ども達の自己肯定感ややる気も向上し、学校・家庭・地域の連携も高まっている。
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	9.17	9.64	家庭科のミシン学習、書きぞめ練習、校外学習の見守り等で保護者や学習支援ボランティアの方々に依頼し、学習の支援をしていただくことで、きめ細やかな教育を実施することができた。また、朝の読み聞かせやおはしの森のお楽しみ会により、本に親しむ習慣が身に付き、読書好きな児童が増えると共に、落ち着かぬ雰囲気や学習に取り組む態度も身につけている。
9	児童は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	8.64	9.64	登校後に心算の入力や朝活動の準備の習慣化、朝活動での基礎基本の定着や読書活動への取組を全校で実施することで、1時間目の学習を落ち着いた態度で開始できるようになっている。また、課題意識の向上や振り返りを重視した授業の工夫や少人数指導や教科担当制の実施により、落ち着いた態度で主体的に学習に取り組む児童が多みられ、学びを深めている。
10	教職員は、学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童の実態に基づいた授業改善に努めている。	8.94	9.64	深い学びの実現に向けて基礎基本の定着と総合的な学習で培った探究型学習を各教科の授業に取り入れ、児童が身に付けた知識や技能を生かして主体的に問題を解決することで学力の向上を図っている。また、全教職員で全国・埼玉県学力学習状況調査の結果を分析し、本校の児童の強みと課題を把握し、課題解決に向けた朝学習の実施や系統性を重視した授業を実施し深い学びの実現を目指している。その他、学校生活に関するアンケートを実施し、授業が分かりやすいと感じている児童の意識調査を実施し、結果を分析し、計画・実施・評価・改善という授業改善のPDCAサイクルを推進している。
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	9.09	10.00	デジタル教科書の活用や自分の考えをデータ送信して対話・情報発信するオクリンクやムーブノート等を活用し、自身の学びの整理、深化や他の児童との意見の相違や提示された資料の共有・分析を行っている。視覚的に分かりやすい教材等の提示や児童が作成したプレゼンを活用することで、話し合いがより活発になり、学びが深まっている。また、ICT支援員を活用した研修会の実施や情報収集を行い、教職員がICTを生かした分かりやすい授業や児童相互が意見交換・情報活用を行うための効果的な活用方法の研究に継続して取り組んでいる。
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたった。	9.55	10.00	年度当初に「吉小ナビ」を教職員・児童・保護者が確認・情報共有し、学校経営方針と共に学習・生活のルール等について共通行動（指導）に取り組んでいる。学習の準備や2分前行動、発表や話し合いの進め方、ノートの手書きや、学習用端末使用の約束等を全校一体となって実施することで、学びの土台となる学習規律や、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができる。また、南中学校区でナビの共有を進めることで、小中3校で9年間を見通した学習や生活の取り組み方やルールの共通確認・共通指導につなげ、中との円滑な接続による中1ギャップ解消に努めている。
13	児童は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	7.50	9.29	多くの児童が場に応じた正しい言葉づかいを行うことができる。見本となる学習や行動ができる児童を毎月選出し、「わかまる賞」を授与することで積極的な生徒指導による発案と伸ばす教育活動を推進している。意識の向上を図っている。あいさつは、毎月各学年であいさつ名人を選出して表彰することで、積極的に児童が見られる一方で、返事はできるが、進んであいさつすることを苦手とする児童もいる個人差も課題となっている。今年度は朝校門であいさつ名人に加えてクラスの児童もあいさつ運動に参加し、全校であいさつの習慣化に継続して取り組んでいる。
14	児童は学習のルールや生活のきまり・時間を守る事ができる。	8.03	9.29	年度当初に「吉小ナビ」を活用し、教職員・児童・保護者で学習のルールや生活のきまりについて共通確認・共通行動（指導）を図っている。大多数の児童が登校後の心算の入力や朝学習・朝読書の準備を行い、朝活動や1時間目の学習に時間を守り落ち着いた態度で取り組んでいる。また、授業2分前着席や廊下歩行、無言清掃等にも、ルールやきまりを守って取り組んでいる。しかし、授業開始の時間や廊下歩行が乱れる児童も見られるため、学年主任を中心とした一斉指導や道徳の授業の充実、注意を呼びかける掲示物により、ルールやルールの大切さを理解して守ることのできる児童の育成に継続して努める。
15	児童はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合って、学校生活を送っている。	8.64	9.29	年度当初に全職員で「いじめ防止のための基本的な方針」を確認し、共通理解・共通指導に取り組んでいる。また、日々の心の健康観察「心音」や、なかよしアンケートを年間8回実施し、いじめにつながるトラブルの早期発見・早期対応に努め、いじめの未然防止や解消率100%に努めている。また、集会委員が主体となって開催するまほうの言葉集全体で、みんな快く過ごすことができるように、使っていない禁止ワードや困った時は相談する大切さを紹介し、人権を大切にしたい思いやりのある行動について全校児童で確認した。教師が積極的に頑張っている児童を称賛することで、互いのよさを認め合う温かい雰囲気を作り出し、相手の気持ちを考えた行動や協力する素晴らしさを実感できるように努めている。
16	教職員は自ら手本となるなど、児童に対して規範意識を高める指導を行っている。	9.17	10.00	互いに認め合い協力して学習や生活に取り組める温かい学校・学級づくりのために、教職員が積極的に児童の頑張りを認め、称賛する指導を大切にしている。また、朝の活動の時間や授業等の時間を守る取組を教師自身が示すことにより、時を守り・場を清め・礼を正す大切さに児童が気づき、行動に移せるよう努めている。ICTも積極的に授業に取り入れ、ユニバーサルデザインを重視した授業を実施することで、ICTを活用した意見交換やプレゼンの能力の向上も図っている。デジタルリテラシーの学習も重視し、インターネットやSNS等を利用する際に気を付ける内容や著作権・肖像権等にも配慮した対応についての授業を実施している。
17	児童は、体力向上に向け、体育の授業や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	8.48	9.64	今年度は吉川市の体力向上推進の委嘱を受け、体育の授業や遊びを通して体力の向上を図った。体育の授業では児童が自分が身に付けた動きや技術等の目標を定め、体の動かし方や道具・場所を工夫して活動に取り組む、できるようになったことを振り返る授業づくりに全校で取り組んだ。また、休み時間のクラス遊びで縦割り班活動でも楽しみなが運動する児童も多く見られた。今年度は体育館のエアコン稼働し、夏場も含めて快適な環境で運動に取り組むことができた。一方、持久力や柔軟性に課題があるため、なわとび名人を今年度より新たに設定し、継続して体力向上に取り組む児童の育成に努めている。
18	学校は、児童の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	8.79	9.64	毎朝の健康観察や「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励、すこやか検査や元気カードの取り組み（睡眠・排便・朝食調べ）を実施し、健康な生活習慣に関する児童の意識を高めている。また、保健だよりや3回実施の学校保健委員会を通して健康管理についての情報や取組を家庭や地域に発信し、健康教育・健康管理の充実を図っている。食育については給食センターの職員を講師としてお招きし、全学年で食育指導を実施し、バランスのとれた食事の大切さやすこやかな成長を願って職員の方々が給食を作っていることを授業の中で子ども達に伝えていただいている。
19	学校は、児童の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童に寄り添った対応をしている。	9.39	10.00	児童・教職員・保護者を対象に、学校生活に関するアンケートを年2回実施し、児童が「授業を分かりやすいと感じている」か、「学校生活を楽しんでいるか」等を把握し、その結果を日々の授業や指導に生かすPDCAサイクルに努めている。一人一人のよさや活躍を褒めて伸ばすことを重視し、規範的な行動にかかわる賞、あいさつ名人、読書目標達成者等、表彰や掲示による自己肯定感の向上、温かい学級・学校づくりに取り組んでいる。また、6年生とその保護者を対象に「いのちの授業」を実施し、人が生まれる奇跡と一人一人が本当に大切な存在であることを再確認し自己肯定感の向上を図ることができた。
20	学校はいじめや不登校をなくすため、児童の指導の充実を図っている。	9.32	10.00	年度当初に全職員で「いじめ防止のための基本的な方針」を確認し、共通理解・共通指導に取り組んでいる。また、毎日行っている「心音」での心の健康診断や年間2回実施している学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等を把握するハイパー00、年間8回実施しているなかよしアンケート等により、児童の活躍や喜びを共有するとともに、困っていると感じたり記述したりしている児童には個別に声をかけ、支援を行い、いじめの早期発見・100%解消に努めている。また、毎月「ここに相談口」を設け、保護者との情報共有・収集にも努めている。「生徒指導報告会」を毎月実施し、情報共有や共通指導を図ることで組織的な対応に努めている。不登校気味の児童への対応では、保護者との連携を密にし、児童・保護者の思いに寄り添いながら、短時間での登校や放課後登校、授業のリモート配信、学習教材の配付等、一人一人のつながりを大切にしている。